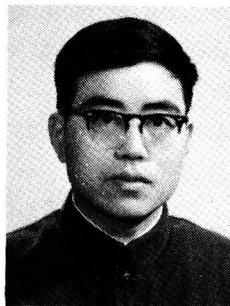


海外シリーズ⑧

随 想

岳 鶴 齡



— 心の故郷 —

時間は早いものですね。早稲田を離れてから4年近くになりました。しかし早稲田での生活は昨日のここのように頭に浮かびます。友達の中山滋さんが私に贈ったアルバムに“早稲田、貴方の心の故郷”と書いてあった。私は早稲田を大変懐かしんでいます。

— リズム加速 —

夏休みの時、TOYOTA自動車工場を見学した。帰る途中留学生達は色々な感想を話し、その中の一人は“いくら高給料でもあんな労働者になりたくない、彼らは機械人だ”と言い、私も同感でした。

中国人の生活のリズムは日本人より遅いですが、いま経済体制改革と対外開放以来、生活リズムは段々早くなってきました。町のいたるところに、“時間は金で、効率は生命である”というスローガンがみられます。

私も毎日緊張した生活を送っています。朝6時に起きなければなりません（娘の朝御飯の用意）。娘の学校は遠くて、途中バスの乗りかえがあり大変時間がかかります。ことし彼女は高校三年で大

学入試準備に一生懸命勉強しているのです。大学に入るのは非常に難しい。この数年来大学は増えても、高校卒業生が多いのでなかなか満足できませんでした。娘が大学に入れるかどうかとても心配しています。

仕事も忙しい、いま“大鍋飯”がうちやぶられて、労働実績によってボーナスを配分するので皆はりきってやっています。退勤して家に帰っているいろいろな家事と子供の勉強の指導をやらなければならない。だから土曜の晩を除いて、TV番組も見る時間はありません。

忙しさに比例して収入も高くなって喜ばしいことですが、こういうふうにやっていると、TOYOTA労働者と同じになるかなと心配しています。

— はやすぎますか —

日本へ行った以前の1980年のことですが、その時中国ではカラーTVはもちろん、白黒TVの値段も高く、普通のサラリーマンには買えませんでした。金持でもなかなかか手に入りません。生産量が少ないからです。当時人々の追求の目標は“三転一响”（三転は自転車、ミシン、時計で一响はラジオ）でした。日本にくると商店に家庭用電器は山ほど積まれて、普通の家庭も大部分電化され、大変うらやましかった。いつ中国もこの程度になるのかと期待していました。しかし、82年国にかえてみると、ずいぶん変わりました。とくにこの

中国、成都化工設計院付 主任技師

1980-1982 早稲田大学応用化学科酒井研究室にて進修

2, 3年間の変化は目立ちます。町に色々な電気商店がずらりと並び、秋葉原ほどではありませんが家庭用電器はなんでもそろっています。はじめは日本製のものが90%を占めていましたが、今では国産が80%をしめています。

家庭用電器は普通の家庭にも入りました。うちの設計院職員の家庭にも洗たく機、冷蔵庫は普及、カラーTVとステレオも70%以上普及しました。

農村では経済責任制を実施以来、農民の生活はすごく豊かになってきました。彼らはモダンな住宅が好きです。この数年来、二階建てから四階建ての新しい住宅がぞくぞく建てられています。これまでのような低いわらぶきや土れんが造りの農家はもうみられません。これは農村のいたる所にみられる“新築ブーム”です。

成都市も変わった。高層ビルは次から次へと建てられ、道の幅も拡張し、町の中心に花だんを造りました。うちの設計院の13層“Y型”事務ビルは4月に完工する予定で、門前の道も50mの幅、中央は自動車道、両側は自転車の道、いちばん外は人行道があり、道の間には花だんがあり、大変立派でかつ美しいです。

十年の文化大革命運動は、中国と先進国の差を拡大しました。対外開放以来、中国はすぐ先進国に追いつける気持をもっています。しかし国は大きく人口は多すぎるので、いろいろなトラブルがあります。たとえば、家庭電器用品の普及には電気不足、建物には鉄筋、コンクリート、ガラスなどが供給不足です。

いま中国の現状をみると発展は早すぎたかどうか、バランスをとらないと逆に遅くなるかもしれないと私は思います。

— みなさん成都に来ることを 心から歓迎 —

みなさん四川省にすることがあります。中国の西南に位置する四川省は気候温和で雨にも恵まれ、物産ゆたかであることから、昔から「天府の

国」とよばれています。しかし昔は唐代の詩人李白が「蜀道の難きは青天に上るよりも難し」とうたったように交通は不便でした。なぜですか。まわりがけわしい山々に囲まれているからです。中央は盆地になり、成都はその盆地にあります。

成都と東京の気候は大体同じ。夏はむし暑くてじめじめしていますが、ときどき雨が降るのでそんなに不快ではないんです。冬は短かく、めったに雪は降りません。いまいちばん寒い所でも麦畑はみどり一面で、小麦は青々と力強く伸びています。太陽が出ると暖かくてまるで春のようです。

成都の食物は全中国で有名で、味の特長は“麻辣”です（麻はさんしょうの味、辣は唐辛子の味）。私は地元人ではなく、1965年に成都にきました。はじめは四川料理になれませんでした。あのばっ辛い“回鍋肉”（煮こんだ豚肉を唐辛子、味噌と一緒に炒めた四川料理）を食べて舌をフーフーいわせなくてはならない。それに汗びっしょりです。なぜ地元人は麻辣の味が好きなのでしょう。これは雨が多く、湿気がひどいためです。漢方医学によりますと、唐辛子は熱性のもので体を暖め、さんしょうには除湿利尿などの効きめがあり、そのため四川省はじめ雲南、貴州、湖南、江西など雨が多く湿気のひどい地区では唐辛子やさんしょうで寒さを追いやり湿気を除くのです。

成都の町に軽食店は沢山あり、いろいろ有名な軽食を売っています。例えば“麻婆豆腐”“夫妻肺片”“担担麵”“龍眼包子”“頼湯元”などです。

それに名所古跡も沢山あり、例えば武侯祠（三国時代の劉備の墓、諸葛亮の像などがある）、杜甫草堂（唐代有名詩人杜甫の住んだ所）、近郊の宝光寺（500の羅漢の塑造像があり、京都の三十三間堂より規模がずっと大きいです）などがあります。

みなさん是非成都に一度おいでになって、有名な軽食を味わい、名所古跡であそんでください。その時私は案内致します。